



AIYES 通信

横浜スペイン交流協会会報

1996年6月1日発行 第8号 発行・横浜スペイン交流協会事務局

－ みんなで魅力ある協会に育てよう －

横浜スペイン交流協会会長 下山貞明

新緑の候、皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

1995年度事業につきましては、会員の皆様方の御努力により着実にその実績を積み重ねることができましたことを厚く御礼を申し上げます。

当協会も創立6年となり、昨年11月には5周年記念事業として宮城スペイン協会と共にセビリア市並びにコリア・デル・リオ市へ「さくら植樹」事業を実施いたしました。

本年度についても、前年度に引き続き会員の皆様方の協力により更に充実してまいりたいと存じます。

「継続は力なり」とよく云われますが、とかく年数が経過いたしますと全体的にマンネリ化

し、休眠状態となりがちですが、本年度は協会発足の原点である会員相互の親睦を図ることを大きな柱とし、スペインについてもっと身近に知りたいこと、こんなことをしてみたいことなどを率直に話し合う機会をつくりたいと考えております。

従って、事業の実施にあたっては、みんなで楽しく参加し、実行することにより、会員相互の心と心がふれ合うことでその絆が深まり、更には協会の発展に繋がるものと確信しております。

どうか、会員の皆様方には新年度事業にむかって、みんなで参加し、魅力ある協会に育てて戴きたくお願いいたします。

＊ ＊ ＊ 1996 年度総会報告 ＊ ＊ ＊

1996年5月18日、ヨコハマジャスト8Fホールにおいて、96年度総会が開催されました。

96年度の総会は昨秋に実施されたセビリア市、コリア・デル・リオ市へのさくら植樹の報告および今後の予定などが発表されました。会長挨拶、議長選出の後、以下の議案について決議がなされました。

第1・2号議案

前年度事業報告・決算・監査報告は異議なく承認。

第3・4号議案

規約の一部改正・役員改選について、異議なく承認。
(新役員は、右記参照。)

第5・6号議案

新年度事業計画・予算案も異議なく承認。

第7号議案

その他

《 新役員 》

会 長 下山 貞明

副 会 長 植田 伊津 齋藤由基彦

常務理事 飯塚 劭 中村 瑛子

事務局長 朝倉 郁 (常務理事兼任)

理 事 上野 淑子 岡 京子 阪本 博

西丸 與一* 平田 正信* 宮崎 沙枝

*池本 三郎

監 事 芦垣登志男* 竹田 富美

*は新任、池本氏は入会次第理事に就任予定。

1996 年度事業計画

会員各位のご協力と、ご理解により設立5周年目にあたる昨春秋、種々問題はありましたが、セビリアおよびコリア・デル・リオの両市に、当協会の主要目的(事業)の一つである「さくら植樹」が、宮城スペイン協会と共催でできました。

これからも残る問題点をクリアしながら、本事業を推進していきたいと考えております。

1. 「さくら交流事業」

1998年を目標に、再度セビリア 市およびコリア・デル・リオ市にさくらを植樹するための基金の募集をつづけます。また、ロンダ市への補充植樹のための基金募集も行います。

2. 交流パーティの開催

12月7日に、ディナーパーティ形式で、スペインをテーマとした音楽や、スペインの曲を中心に、(弦楽四重奏の)演奏会を開催。

3. スペインサロンの開催

(1) 柳貞子とスペインの歌を歌おう

(2) 元大使の見たスペイン

(協会顧問 林屋永吉氏)

(3) スペインの政治と日本

(東京経済大学教授 荻内勝之先生)

4. 事業計画策定委員会の設置

5. 懇親会の開催

すべての会員が参加し、楽しめるビアパーティのような懇親会を催します。

6. テルトゥリアの開催 (年9回程度)

7. スペイン語教室の開催

8. 第4回写真展開催準備委員会の設置

9. 会報「A I Y E S 通信」の定期刊行化

協会のあゆみ (1995 年度)

1995年

4月 6日	日本スペイン協会主催、新駐日スペイン大使歓迎パーティに出席	10月 4日	駐日スペイン大使と協議
4月15日	1994年度理事会並びに総会開催	10月 6日	宮城スペイン協会早川会長と協議(経費負担等)
5月20日	幹事会並びに『支倉常長の旅』講演会開催	10月12日	苗木の検疫実施(日本花の会和田氏、横浜市緑政局池本氏、立ち会い)
5月27日	幹事会開催	10月13日	日本花の会和田氏と検疫について協議。宮城スペイン協会へ状況報告。緊急幹事会開催
5月31日	市海外交流協会へ補助金申請書を提出	10月18日	外務省よりスペイン政府と交渉の結果スペインは理解を示したがE Uとの調整のため一時延期されたいとの報告を受ける
6月20日	駐日スペイン大使と懇談(於：スペイン大使館)	10月21日	第2回「さくら植樹」スペイン友好親善訪問団結団式
6月30日	協会5周年記念パーティ開催	10月22日	幹事会開催(現地にてさくらんぼの苗木、桜の枝を調達し、接ぎ木して植樹することにする)
7月 8日	宮城スペイン協会と打ち合せ(以後、都度開催)	10月26日	外務省、スペイン大使館、関係機関に対し最終報告
7月22日	幹事会並びにビアパーティ開催		横浜市長よりセビリア 市長、コリア・デル・リオ市長へのメッセージを受ける。
8月25日	市緑政局へさくら植樹技術員派遣について協力依頼		
9月 2日	幹事会。スペイン訪問団案内書発行		
9月 6日	横浜市に対し訪問団の後援名義申請書を提出 (10.18付、許可)		
9月 7日	日本花の会とさくら苗木の検疫について協議		
9月13日	横浜市に対し技術員派遣依頼書提出(10. 9付、池本氏に決定)		

10月28日 スペイン友好親善訪問団出発
 11月 3日 セビリア 市、コリア・デル・リオ市にて市長表敬「さくら植樹」祭式典、親善パーティ開催
 11月 6日 帰国
 11月11日 幹事会開催（帰国報告）
 11月25日 幹事会開催（スペイン語教室の運営等について）
 12月 5日 駐日スペイン大使と懇談（於：スペイン大使館）
 12月12日 神奈川新聞にて4回にわたりスペイン訪問記事連載（12日～15日）

1996年

1月 6日 スペイン教室新年会
 1月26日 外務省より次期「さくら植樹」計画書提出依頼あり
 2月21日 スペイン訪問団の経費について両協会の清算と挨拶
 宮城スペイン協会の新旧事務局長(桑原、中島氏)来浜
 3月26日 第3回スペイン写真展開催(26～30日) 入場者数、約320名

◆ テルトゥリア 9回開催

◆ スペイン語教室 17教室開催 総生徒数291名

∞.∞ 第2回「さくら植樹」友好親善訪問団について ∞.∞

報告者 下山 貞明

1995年10月28日成田を出発しマドリード、バルセロナ、グラナダ、セビリア、コリア・デル・リオ市の各都市を巡り11月6日無事帰国いたしました。

今回は、セビリア 市、リオ市に対して桜を植樹する目的で訪問団を編成いたしました。

このことについては、すでに神奈川新聞(1995年11月22日、12月12～15日)にて、5回にわたり掲載され、また、第3回写真展の御案内でも御報告いたしました。皆様方の御協力に対し、厚く御礼を申し上げます。

第2回「さくら植樹」事業の実施にあたっては、

1994年6月14日駐日スペイン大使とEU圏における「さくらの苗木」の輸入規制について協議したが問題はないとのことで、宮城スペイン協会と共催準備を進め、両都市の受け入れも順調にはこびましたので、出発1ヶ月前ということで関係機関へ再度協力要請と挨拶にまわりましたところ、突然、横浜植物防疫所よりスペイン政府の受け入れ許可が必要であるとのことで、別掲「さくら植樹」の検疫にかかる経過報告のとおり、再三にわたり折衝を重ねたが誠に残念ながら苗木の贈呈については、一時延期せざるをえませんでした。

その対応策について、池本氏(横浜市緑政局技術指導員)を中心にして協議した結果、現地にてさくらんぼの苗木を調達することになり、幸いに朝倉氏(協会理事)の友人(パンブローナ在住)の協力により確保し、その苗木と桜の枝を接ぎ木する方法

で両都市に植樹することが出来ました。

また、「さくらの苗木」の育成については、気候条件(夏45°)の厳しい場所であり、各市の専門技術者が参加し、池本氏の指導のもとで、なんとかして桜の花を咲かせようとの強い決意がなされたことは大変有意義でした。

また、新たな提案として、スペインのアーモンド(桜の花がよく似ている)の苗木に桜の枝を接ぎ木し桜の花を咲かせようとのことで各都市で試みることとなったので、当協会では帰国後直ちに池本氏によりアーモンドの苗木を購入し桜の芽接ぎを行い、現在その育成を観察しており、どんな桜の花が咲くか楽しみにしております。

以上のとおりですが、総括的には一定の成果があったと確信しております。

ここで、今回の友好親善訪問団について、いくつかの反省点について申し上げます。

1. 参加募集と団結成について

☆ 当初参加予定者は事前のアンケートでは50人は参加したいとの事であったが、実際には殆ど参加して戴けなかった。

☆ 団の編成は、二団体に分かれ全員が植樹祭に参加することとしたが事前の相互連絡があまり出来なかった。

2. 市民文化交流のあり方について再検討を必要とする。

3. 日程については、主要な行事について最初に組み入れる。
4. スペインとの連絡調整については、今回は現地在住の今江氏に委託したが経費負担が増大であった。
5. 「さくら交流基金」の財源確保について
募金開始中、阪神大震災と重なり、また前回多額の御寄付を戴いた方に対しては、御遠慮申し上げたため、募金活動が全体的に消極的であった。

☆ 今回の募金額は、81人1団体で、1,242,861円であり、会員の協力者は3分の1程度で、本事業について趣意書を多数配布したが、趣旨の徹底がはかれなかった。今後においては、募金活動についての再検討が必要である。

以上、反省点を踏まえた報告ですが、国際交流とは、息の長いものであり、今後とも本事業に対して、よろしく御協力をお願い申し上げます。

∞.∞ さくら植樹の検疫にかかる経過報告について ∞.∞

- 9月27日 外務省、スペイン政府観光局、イベリヤ・スペイン航空、日本花の会へ挨拶。
スペイン大使との日程調整する。
- 9月29日 横浜植物防疫所へ挨拶 — スペイン国の受け入れの許可書が必要とのこと。
- 10月 2日 スペイン大使への面接の日程依頼。
- 3日 横浜植物防疫所へ前回(ロンダ市)の経過等を説明した。
- 4日 スペイン大使に協力要請し、マドリード空港の税関長へ直接文書にて依頼するので問題がないとのことであった。
- 5日 横浜植物防疫所に対し、大使の意向を伝える。
- 9日 日本花の会と打ち合わせ、スペイン大使館より大使の文案のFAXが届く。再度横浜植物防疫所と折衝する。
- 11日 スペイン大使よりマドリード空港税関長へ文書発送の連絡があった。日本花の会と打ち合わせをする。
- 12日 苗木の検疫実施(農場にて)
- 13日 日本花の会と打ち合わせ。
- 16日 再三折衝しても理解が得られず、あくまでスペイン国の受け入れ許可書がなければだめだとのことで、やむを得ず外務省へ協力要請し、駐西日本大使館よりスベ

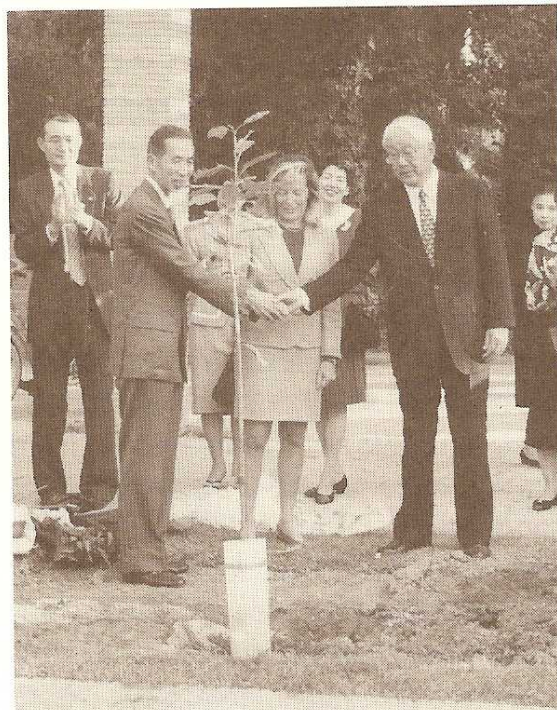
- イン政府と折衝して貰うこととした。
- 17日 外務省より18日にスペイン政府と協議するとの連絡があった。
- 18日 外務省よりスペイン政府の農業漁業省農産品検疫局植物貿易担当次長、バスケス氏と駐西日本大使館の文化担当参事官と協議した結果、趣旨については十分理解したが、EUとの調整が必要なので時間的に無理であるとの連絡があった。(別添え通達による)直ちに、スペイン大使館へ連絡したところ、政府見解がでてしまうと、どうすることもできないとのことで、商務部と協議されたいとのことで直ちに連絡したが回答がない。
- 19日 日本花の会と対応策について協議し、とりあえずスペインに移植したさくらの木を利用するよう(バルセロナ)折衝して貰うこととした。
宮城スペイン協会へ緊急連絡する。
- 20日 横浜植物防疫所へ再度判断されたく折衝したが、理解が得られなかった。外務省より今後について協力するとの連絡があった。

第2回「さくら植樹」友好親善訪問団について

スペイン友好親善訪問団は、1995年10月28日成田を出発し、マドリード、バルセロナ、グラナダ、コメドバを巡り、11月3日「さくら植樹」都市のセビリア市並びにコリア・デル・リオ市へ表敬訪問し、セビリア市においては、マリア・ルイサ公園に、コリア・デル・リオ市においてはグアダルキビル川の公園に、市民はじめ関係者の皆様が集まり記念植樹することができました。

この「さくら植樹交流事業」につきましては、第1回のロンダ市に引き続きまして会員の皆様をはじめ各関係機関等の御後援並びにご協力により実施することができましたことを厚く御礼申し上げます。

今回の第2回「さくら植樹」事業は、宮城スペイン協会と共催のもとにセビリア市(500本)、コリア・デル・リオ市(200本)、ロンダ市(100本補充)に対し桜の苗木を贈呈することで約2年余にわたり準備を進めてまいりました。



セビリア市、マリア・ルイサ公園にて
左2人目より下山会長、カルメン・ディス セビリア市助役、
早川宮城スペイン協会会長

特にアンダルシア地方における桜を植樹することは気候条件(夏は40℃以上)として大変むずかしいと云われており、さきに植樹いたしましたロンダ市においては、植樹(3月)後の夏期において約2ヶ年間にわたり干魃となり、ロンダ市並びに市民と共に桜の苗木の育成に努めておりましたが、再三の気候の悪変により3分の2が枯れて、現在約70本が育成しており、その維持管理について育成状況を定期的に報告させているとのことでした。

又、当初においては、日本から贈られた桜について日本文化を含めて各学校の教材として日本を紹介することができたと、懇親会の席にてマリア・カスタニョ・ヒメネス助役(ロンダ市)さんより熱のこもったお話を伺い深く感銘いたしました。

今回セビリア市よりロンダ市と同様に桜の育成にあたって気候的に大変厳しいので是非とも日本の専門技術者を派遣されたいとの強い要請がありましたので、横浜市へ専門技術者の派遣をお願いいたしましたところ、緑政局の池本三郎氏(中部公園緑地事務所所長)を選任して戴き準備を進めてまいりました。

かながわ TODAY

接ぎ木

交流の意義深まる

スペイン桜植樹の許

24

スペイン友好親善訪問団のメンバーが、セビリア市のマリア・ルイサ公園で桜の苗木を植樹している様子。左から、下山会長、カルメン・ディス市助役、早川協会会長が写っている。

スペイン友好親善訪問団のメンバーが、セビリア市のマリア・ルイサ公園で桜の苗木を植樹している様子。左から、下山会長、カルメン・ディス市助役、早川協会会長が写っている。

神奈川新聞に掲載された植樹友好親善訪問団の記事

たところ、出発間際に突然、EU圏の植物輸入規制の問題が起こりその対応策について関係機関と連日にとり協議を重ねましたが、誠に残念ながら「さくらの苗木」の贈呈については一時延期せざるを得なくなりました。その代案策として現地(パンプローナ)にて「さくらんぼの苗木」を調達し、それを台木として日本の桜の枝を接ぎ木して植樹することに決定いたしました。この方法により池本氏の指導のもとにセビリア市、リオ市、ロンダ市の専門技術者と事前に協議し無事に記念植樹することができました。

このことにより、各都市の専門技術者の方々には、日本の桜について深い理解を示され、これを機会になんと少しでも日本の桜の花を咲かせようとの強い決意がなされ、更にスペインのアーモンド(花が桜と似ている)の苗木を台木として桜の枝を接ぎ木して桜の花を咲かせようとの新たな提案がなされましたことは大きな成果を得ることができました。

同日の夜、交流パーティということでアルフォンソ13世ホテルにて各都市の関係者をお招きし総勢約100人が集まり日本の伝統的な琴の演奏などを御披露し、なごやかな相互交流となり次回の再会を楽しみにその絆を更に深めることができました。

11月4日には、帰国に際して駐西坂本大使の心あたたまるお招きを戴きましたので、先ず当協会の「さくら植樹」交流事業の趣旨説明と訪問団について御報告を申し上げましたところ、坂本大使には深く御理解を戴き、責任をもってスペイン政府と折衝し、

La ciudad japonesa de Yokohama dona a Sevilla quinientos cerezos

Sevilla. S. L.

La delegada de Medio Ambiente, Carmen Diz, ha recibido recientemente a una delegación de la ciudad japonesa de Yokohama compuesta por un centenar de miembros de la asociación «Miyagui y España» y de la agrupación de intercambio entre Yokohama y España, con motivo de la visita a nuestra ciudad fruto de un intercambio cultural.

Dentro de esta visita se han desarrollado varios actos, entre los que destaca la donación por parte de la ciudad nipona a Sevilla de quinientos cerezos japoneses.

La importancia de esta donación radica en que, al estar prohibida la importación de plantaciones con raíz por la Unión Europea, se procederá al envío desde el Japón del material necesario para injertar la especie en plantas españolas adecuadas, lo que se llevará a efecto en el mes de febrero del próximo año, la época más adecuada para llevar a cabo esta operación.

La plantación del resultado de los injertos de cerezos japoneses se llevará en un parque de la ciudad aún por determinar. De momento, destaca la delegación de Medio Ambiente, se ha realizado una plantación simbólica de estos cerezos en la denominada Glorieta de los Lotos del Parque de María Luisa.

スペインの新聞「ABC」に掲載された植樹の記事
95年11月5日付

早期に解決できるようにいたしたいとのことで訪問団一同は感激し勇気づけられました。

今後においても、いろいろな問題があろうかと思いますが、「さくら」のルーツと申しましょうか明治年代の終わりに日米友好のシンボルとしてワシントンに贈られ、今やポトマック川の桜が見事に定着したのも永い年月を超えて開花したものと思います。

当協会としても日西友好のシンボルとしてスペインに植樹した桜が大きく成長するほどに日西との市



コリア・デル・リオ市 支倉常長像前にて。参加者記念撮影

民相互の文化交流の発展に寄与するものと確信しております。

今後とも多くの皆様方の御協力と御支援をお願い申し上げまして報告と致します。

なお、この「さくら植樹」事業の収支につきましては、会報の決算報告書に掲載いたしましたのでご了承を賜りたいと存じます。

「さくら交流基金」の募金については、そのまま積み立てさせて戴きます。

(註) 第2回スペイン「さくら植樹」友好親善訪問団に御同行を戴きました横浜市緑政局の池本所長様、神奈川新聞の三浦経済部長様、JTBの添乗員岩佐恵美子様に対して厚く御礼申し上げます。

なお、神奈川新聞により1995年11月22日並びに同年12月12日-15日まで4回にわたり三浦経済部長さんにより訪問団の記事が掲載されております。

第3回

「私達のスペイン」写真展 開催

さる3月26日～30日に渡り、協会主催による第3回「私達のスペイン」写真展が開催されました。

今回は写真のみの展示となりましたが、会員の方々を中心に100点近い作品が出展されました。

また今回は会場が変わったことや、3月末という時期に平日のみの開催という条件でしたが、多くの来場者を迎えることができ、次回に大きな弾みとなりました。

1枚1枚の写真に込められた作者の想いは、きっと見た人の心に届いたことでしょう。

次回も多くの会員の方々の参加をお願い申し上げます。



来場者で賑う写真展会場

スペインサロン開催のお知らせ

1996年度第1回文化講演会をご案内します。
多くの皆様のご参加をお待ちしております。

演題：「スペインとイスパノアメリカ経済の裏側」

講師：石井陽一先生

(神奈川大学教授・当協会顧問)

日時：1996年 6月22日(土) 14時～16時

場所：横浜市開港記念会館7号室

(JR関内駅、南口横浜市役所側出口より徒歩10分)

費用：会員 1,000円 / 一般 1,200円

定員：48名

申込み方法：電話またはFAXで下記宛、お願いします。

申込先・事務局

～ スペインミニミニ情報 ～

これからスペインへ旅行を予定されている方に、
ちょっとした情報をお知らせします。

まずはお祭りから…

<< 1996年スペインのおもな祭り >>

6月 JUNIO

9日 聖体祭(全国。トレド、シッチェスが有名)

20～29日 サン・フアンの火祭り(アリカンテ)

7月 JULIO

6～14日 サン・フェルミン祭(パンプロナ)

8月 AGOST

3日 セヤ川下り(オビエド県アリオンダス・リパデセーヤ間)

4日 アストゥリアス祭(オビエド県ヒホン)

16日 サン・ロケ祭(オビエド県ヤネス)

9月 SEPTIEMBRE

(未定) シェリー収穫祭(ヘレス・デ・ラ・フロンテラ)

19日 南米移住記念祭(オビエド)

20～26日 リオハの収穫祭(ログローニョ)

24日 メルセド祭(バルセロナ)

10月 OCTUBRE

7～13日 ピラール祭(サラゴサ)

25～27日 サフラン祭り(トレド県コンスエグラ)

第3回「私たちのスペイン」写真展を見に行ったら。新しい作品古い映像、皆スペインでの思いが滲み出て、見る私もしばしスペインに浸り、楽しい一時を過ごした。訪ねたことのある場所はさまざまな事を思い出させてくれたし、知らない所はぜひ行ってみたいという思いに駆られた。

カサ・パトリョの写真もあった。街中に静かに佇んでいるこのビルはガウディの傑作の一つであることは言うまでもない。同じガウディの建物にカサ・ミラがあり、ミラの方が有名なようであるが、私はこのエレガントなパトリョが大好きである。魚の鱗をかたどった柔らかな曲線を見せる屋根、その色の淡く美しいこともアイ・マスクに見える窓も何となくやさしい。そして宝石を散りばめたような外壁の装飾が、夜ライト・アップされるとキラキラ輝いている。中を覗いてみたくなって、友達とたまたま開いていた扉から侵入してみたことがある。螺旋階段が中央にあり、回りの部屋の大きな花のすりガラスが美しかったのを覚えている。バルセロナ・オリンピックの少し前だったか、このビルが売りに出されて、朝日新聞にもその記事が載った。幾らだったのだろうか。買い手がつかなかったと聞いて、どういう訳か安心した。

ガウディの未完成の作品、あまりにも有名なサグラダ・ファミリアは、二度目に訪れた時の写真と前のものとを較べると、少しずつ完成に向けて変わって行く様子が分かって面白い。西側の「栄光の門」の左側の壁にはいつの間にか、縦横斜めにどう加えても33になる数字のます目ができていた。生誕のファサードは、楽器を奏でる白い天使の像が増えている。これは日本人彫刻家外尾悦郎氏の作品だと聞く。テレビや雑誌で知っていた彼にサグラダ・ファミリアで偶然会った。ツアーの仲間と共に写真に納まって貰った。

来年の写真展には、私も前に撮った写真を引き伸ばして出品したいと思っている。

「あ る 交 流」

平 田 正 信

急に車内が明るくなった。というのは少し大袈裟だが、目を上げると前に顔のつくりと、ドレスの柄の派手な、貫禄充分な異国の中年婦人三人が立っていた。彼女達が威勢よく話しているのは、どうみても（聞いても）スペイン語である。

これは3月末のある日、京浜急行の車内で経験したことである。スペイン語を囁っている身としては、いきおい聞き耳をたてることとなった。それを察したのであろう、一人が英語で「われわれはメキシコ出身で、今スペイン語で話している」とのたまうた。つづけてスペイン語で「汝はスペイン語を解するか」とたたみかけてきた。つられて「Si un poco」と言ってしまったが、その後は三人から理解の限度を越えるスペイン語を、浴びせかけられる羽目になってしまった。

そのうち突然よく判る質問がきた。「貴方は何と呼ばれているのか？」答え。「私の名前は HIRATA である」尋ねた彼女は一寸間をおいて言った。「貴方を PIRATA と呼びたい」「No, HIRATA だ」

電車は上大岡駅につき「Adiós Señoras」と言って降りようとしたとき、彼女達が叫んだ。「Adiós PIRATA!」周りの人々の笑いと共に楽しいオバサン達と別れた。帰宅後西和辞典をひくと、PIRATA の意義は海賊とある。電車内での短かい会話のなかでも、遊び心を忘れない彼女達に脱帽した一日であった。

～*.*～ イベント情報 ～*.*～

第11回スペインの詩情を描く

島津豪亮個展

1996年 7月 4日(木)～ 7月10日(水)

東急百貨店日本橋店・6階美術画廊

『島津氏の作品の風景の中を流れる、日本・スペイン間の文化的融合は、両国の国民をさらに近づけるために大いに貢献しているのであります。』

駐日スペイン大使

サンティアゴ サラス

後援： スペイン大使館

協賛： イベリヤ・スペイン航空

※ 島津氏は当協会の会員です。